

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072501139		
法人名	社会福祉法人 阿南町社会福祉協議会		
事業所名	認知症グループホーム まめだかな		
所在地	長野県下伊那郡阿南町西條709番地		
自己評価作成日	平成24年1月19日	評価結果市町村受理日	平成24年4月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成24年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所開設から7年になり当初からの入居者が3人、100歳越えの方が一人、通常であれば特養併設などのグループホームでは特養移行するぐらいの重度の利用者が増えている中で、歩行可能者4名、車いす利用者5名となってきた。このような中で、何が可能なのか日々あり方を検討し模索が続いている。当地方にある私共を含めたグループホーム三施設で運動会やお花見等を共同で行ってみると、当施設利用者の重度化の状況が非常にわかる中で、家族会や地域運営推進会議でも報告しながら、最終的な看取りまでこでやってほしいという100歳越えの方は、今、いつでも死を迎える準備を家族職員担当医師によって形成しながら、最後は他の入居者と家族と職員でみんなで手を握り合い頑張ったね今まで私たちに元気をくれてありがとうという意味を込めた看取りを送りたいし、そのことが最後まで利用者一人一人に寄り添う又は馴染の在り方の実践ではないだろうかとの思いから再出発をしなければならない新たな段階にきていると職員たちが感じている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町の社会福祉協議会としての役割があり、地域の祭りがホームの敷地内で行われる、毎月の保育園との交流など、近隣地域と関係を深めながら7年目を迎えている。管理者や職員の移動等があり、再度自分たちで地域密着型のサービスの役割や意義について学び、理念を見直す検討が始まっている。このことは、さらに利用者の尊厳を守り利用者本位の介護を目指されていると期待できる。利用者は介護度もあがり、重度化してきているが、開所当初からの方針をもとにチーム一体となってターミナルケアに取り組み、家族からも感謝されている。今後、経験をまとめ、さらに本人・家族・職員・地域関係者が安心して取り組まれることを期待する。
--

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に標語と理念を掲載し職員にも来訪者にもわかる体制をとっている。「受容・共生・自律」と評し「利用者の人格を尊重して受け入れその人の生活歴に鑑み共同生活の中での役割、居場所楽しみを見つけたし、できる限り自律した生活が送れるように支援していく」を理念としているが、この理念をもっと心に沁みる短い理念語に置き換えて「共有と実践」を新たに作り上げたい。	開設当初からの理念について、文章が長くわかりにくいので、みんなで見直しをしている。標語の“受容・共生・自律”についても、どう捉えて実践に活かしていくのか検討を進めている。	開所7年目となり、この間、職員の交替もある。地域密着型サービスの意義やホームの役割について確認しあい、自分たちの指針となるような理念をつくりあげていかれることを期待したい。また、理念を実践につなげていけるような取り組みや方法を検討されることが望ましい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所付き合いを大切に地域の行事や祭り、イベントに参加し、事業所の運営推進会議も隣の商業組合団地の代表者にも参加していただいている。1月15日地域と共同で当敷地でどんど焼きを行った。また観音堂のお数珠回しや祭りや商業祭などにも呼んでいただいている。顔なじみになっている。	町社協のホームとして、開設当初から地域との関わりは大事にしてきている。神社や地区、商業団地のお祭りに、みんなで参加したり、毎月保育園の子どもたちとの交流も行っている。地域のどんど焼きを、ホームの駐車場で行うようになった。近くの畑に来た人や、隣の支援ハウスの住人が、お茶を飲みに来るなど、気軽に寄ってもらえるようになっている。当日は、保育園の職員がボランティアで来訪していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の力とは「存在的資源力」「認知症の専門ケア力」「社協への信頼力」として、必要に応じて(力)を地域に提供していく心構えは持っている。認知症コーディネーター(キャラバンメイト)の資格者もいるので地域での役割は必要に応じて対応できる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	商業組合や区の役員等の意見を取り入れ「地域の行事」を当ホームの敷地を利用して行ってもらったり、道路の雪かきをやっていただいたり外部との存在共生が取れている。	区長や地域代表、民生委員、地元企業代表、家族代表、民生課長、介護相談員、包括職員の参加で、3ヶ月に1回開かれている。入居者の状況や行事等についての報告や地域との関係、災害時のことなどのアドバイスをもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当課長が家族会の折にサンタクロースやギター伴奏のクリスマスソングを歌っていただいたりことあるごとに参加していただく体制が取れている。	民生課長が行事のときに訪問をしてくれるなど、必要時に協力してもらえる体制になっている。また、ホーム管理者が、地域包括の管理者と兼ねているので、包括との協力関係もとれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(1)玄関に施錠をしない為に、福祉用総合カタログ等にあるセンサーの設置で徘徊者の居場所を察知する体制をとることで安全管理を行っている。(2)抑制帯やベッド抑制帯は使うべきではないと心得ている。部屋の入口には鍵などとはもともとつけてない。抑制をすることのリスクのほうが多大であることの職員研修を行ってきた。	昨年は、保険会社の研修会で、身体拘束について勉強会を行った。玄関は自動ドアになっており、中からはボタンを押して開くようになっている。居室は掃きだし窓になっており、自由に出入れる。安全のため、敷地内から出るとわかるようにフェンスにセンサーがつけてある。	今後、定期的に日頃の介護のあり方を具体的に出し合いながら、身体拘束の行為や虐待について話し合いを持ち、さらに人権意識を高めたいことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、精神的両面の虐待を防止する職員側の心構え(理念の共有等により)の構築を模索し取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協全体での研修内容に一致した重要課題として取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	毎月家族への手紙、お知らせ、普段から家族との良好な関係を保つ努力を行うことで理解できあう関係づくりが契約の前提と心得て業務にあたることで「説明と納得」をえられやすい。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	社協が発行している広報には「まめだかな」のコーナーを設けていただき「投稿」も可能な方向をとっている。また、今回地域包括支援センターと事業所の管理者が兼務をし民生委員会や地域ケア会議などへの参加の中で情報の取り込みやすい体制を整えた。	家族会があり、会長が運営推進委員会に参加している。家族会は行事にあわせて開いており、その折に意見を聞く機会を設けている。面会時には、個別に話を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月事業所の部所会議を開催する中で意見を聞くとともに管理者が絶えず話を聞き入れる準備を行い職員が話しやすい体制をとっている。	職員会にはパート職員も含め開かれており、そのなかで意見が言える体制があり、職員の処遇、備品の要求、鏡の位置を車いす利用者が見やすいように変えるなど反映されている。また、申し送り簿にも、希望等記入できる。管理者の面接もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループホームの介護報酬、自己負担額の総体が給与や処遇と深く関係していることを理解して働いていただくと同時に、労使が業務上で分かり合えることが大前提と心得、職員権利内容は専属の社会保険労務士に委ねている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や県社協、高齢者福祉協会、その他専門協会が行う研修には極力参加させているし、研修担当者を社協の中に設置して研修情報の漏れがない体制をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この阿南地域の近隣に当事業を含めて3か所の事業所が年間を通じて入居者を交えた交流会を行っているので、互いに顔の見える付き合いが可能になっているので、今後は更に職員や管理者の交流を別に進めたい。また飯伊事業者連絡会を有効に使い研鑽をつみ事業所の改革を進めたい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、関係機関、関係職員などから必要な情報を聞き取り又は各機関の利用状況を確認しながら、ケース診断、アセスメントを進め情報をもとに介護計画を樹立し支援を行う。このための本人聞き取りには必要な情報をまず仕入れる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に築き上げることが可能な部分と支援や家族会を開催するなか又は訪問時に誠実な対応を心がけることで関係を作っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所のサービス導入段階とは介護計画のアセスメントによる問題点の抽出から出てくる介護認定の区分に応じた様々な身体状況に応じた問題点の支援サービスを構築しサービスの支援に心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	来訪者への湯茶接待、食事に関する手伝い、テーブルの拭き掃除、洗濯物の片づけなど又は車いす押しなど又は話し相手などが可能な限り行われている。来訪者の接待は主人公の入居者がいいと考えられる		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院診察への家族の付添、外出事業への家族の同伴、見取り覚悟の場合の家族の同意はもちろんですが絶えず連絡し必要に応じて本人家族職員、担当医師看護師も連携できる関係を築いている。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の「思い」や「現実」での馴染のひとは今の目の前の実態の状況とはかけ離れた状況がありながらも、そこから入居後新たに築き上げていく職員や入居者同士が又は家族の今の付き合い方が実は一番の馴染の関係と言えるが、「実の家や身内の関係」から連綿と続く「血のつながりの馴染関係は」大切にしていきたい	家族や身内の協力を得て、墓参りやラーメン屋に行くなどしている。昔の同僚が面会に来ることもあった。なつかしい場所へのドライブなどの支援にも努めている。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人のさみしさをよく心得ている入居者同士はそばに車いすをより添えておくだけでも安心が見受けられるので、人間関係の在り方は様々に考えられることを行っている		
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	短期入所の場合には極力実行、本入所者はここが終の棲家、家族からは最後の看取りも視野に入れた支援を行っているが「死を境にした契約終了後」も家族が来訪されることもある。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位の中にはたとえば居室でもロビーでも椅子の下や机の下に寝ている入所者がいる。これには一人暮らしの長い家庭での安心の場所があったと思われ、その方法を大切にしている。	日々の関わりのなかで、思いや意向を聞くようにしている。センター方式の暮らしの情報などシートの一部を使用している。	今後、センター方式の特に本人の思いを把握するシートの活用を充実させるなどして、さらに本人の思いや意向の把握に努めることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現施設での安定的な安らかな又は安心した生活を構築するためには過去の実態の総体を把握することが職員の心の中に「思い」の形成が改められるし今を理解できやすいので把握は当然のことと考えている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況は日々刻々と変化がありながらも高齢者の場合には表に現れにくく見逃しがちな問題があるので食事時、入浴時等に又はトイレ誘導や会話の中でも就寝中のいつもと違う寝息まで神経を通わず介護に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ともすると介護計画は前回のまま継続を記入しがちであるが、担当者とは又は部所会議などで、又は日々の記録から再検討を行いながら構築したい	担当制をとっており、毎月ケアカンファレンスを行い利用者の状況を話し合っている。モニタリングは6ヶ月に1回行い、家族の意見も聞きながら、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その時その場で記録を残すように心がけ、また夜勤や日勤者が最終的に個々の記録簿に記入を行いながら記録簿はケアマネージャーも再確認を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化とはもてる資源、人的財産、敷地の有効活用など又は設備の再確認で有効なことは提言を受け入れながら全体の連携のもとに取り組みなおす。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で暮らしていた時の継続が可能な方法を取り込んでいる。地域での友好者の来訪や新聞なども持続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当地域には県立阿南病院、富草診療所、新野診療所、和合診療所、輝山会下条診療所等があり又精神科や皮膚科などとも関係を構築しているが家族会や行事に参加していただく社協の産業医医師の最終的なバックアップができています	かかりつけ医については、本人や家族の希望に添って支援している。家族が診察に連れて行けない時は職員が行っている。協力医の往診もあり、緊急時の対応もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職がリーダーシップをとって個々の入居者の状況や担当職員と協議を行う場面が多々見受けられて互いの連携が出来ていると感じます		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当事業所の看護師が県立病院の近くにおり、入院者の状況を通勤の行き帰りにも立ち寄っていただけるため、病院側の対応も家族の信頼も得られている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今現在家族や担当医師との話し合いの中で最悪の場合でも当方で看取りをする確認ができて100歳越えの入居者があり、いつでも死を迎えてもよいような状況であるが、当ホームの中でみんなで家族や関係者で最後をみとりたい。	社協として開設当初から重度化した場合における指針があり、終末期や重度化した場合の“生前指示書”や“生前指示書の変更届”を作成し取り組んできた。最近も、家族と話し合いをもち、担当医師や看護師と連携をとり、終末期について勉強をしながら実際に対応してチームで支援することができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今回AEDの操作練習を含めて急変の場合の訓練は計画的に行う方向である。特に夜間は一人であり、ALSOKにボタンを押せばすぐ救援に訪れることや救急車が5分以内に救援に来れる場所的優位さを利用した行動方法を指導しつつある(上司、管理者への通報、連絡網活用が初動の第一報としてあり)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当地域の過去の最大山津波は、直上の弁当山から天竜川に一気に崩壊が起こった記録や、深見の大池が陥没できたことを想定するとこれらの状況から何をすべきか問題は残るが、避難場所は行政指定の場所は危険がこののであえてこの地に残ることが最大の方法である。地域の救援依頼は運営推進会議で話し合っている。	年1～2回火災や地震の防災訓練を行っている。居室の入り口には各自のヘルメットが用意されている。警備保障会社や社協の宿直者に連絡が行く体制があり、消防署もすぐ近くにある。地域との協力体制もできている。	今後、夜間想定や実際の連絡体制の機能の確認など、さらにきめ細やかな訓練を行われることを期待したい。

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長年地域社会に貢献してきた中で、今を迎えている入居者にたいして尊敬をもって対応することを大前提とする。ましてや年下の職員たちがかけるべき声かけの在り方には特に配慮をもっておこなうべきと心得ます。	社協全体の研修や研修報告を聞き、プライバシーの保護や人格の尊重について取り組んでいる。認知症に関する研修は順番に受けており、主役は利用者という考えで、日々の介護ができるように努めている。呼び名については、本人に聞きながら呼ぶようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間で追うことなく本人たちの時間に合わせなければならない。特に朝食や昼食、夕食、入浴なども合わせて日課に相手を合わせるような誘導は極力控えながらもそのための声かけには工夫を行いながら自己決定できる方策に心を砕くべきと心得ます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どう暮らしたいかという形が思いとしての言語表示できない方たちもそこに暮らしている今の在り方を尊重した支援に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔や鏡を見ての身だしなみの調え、鏡に映る自分の確認をしていただける環境を整えなおした。また化粧を行う日もある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	プランターや畑には野菜などが植えられ一緒に採取したり野菜を洗ったりイモの皮をむいたりできる炊事手伝いのなかで楽しい食事作りに心がけている。	献立は、季節に合わせて希望を聞きながら決めている。準備をしたり片付けができる人が少なくなったが、準備や洗い物など職員と一緒にやっている。畑から野菜を採ってきて作る、外で食べる、調理人に来てもらったの食事など、楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べることを忘れた利用者もいる中で本人のペースに合わせて必要量の摂取に心がけながら利用者の食事量には絶えず心を配っています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや口腔ケアのために食事後は全員が洗面所での歯磨き支援を行っている。年に一回の口腔ケアの研修にも顔を出している		
43	(16)	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	7年目を迎えた中で、今までできていたことが出来なくなる、100歳を超える、息を吸う、食事を摂取するだけで息苦しくなる状況の方にとって自立とは何を意味するのか。目の前の深い認知症の方々の生活行動を忘れている方たちの排泄支援とは何なのか考えさせられる日々を迎えている。夜はオムツを使っても昼間はトイレ誘導し促してみたり工夫を行って自立支援し、オムツにしない努力を行っている	リハビリパンツ使用の方がほとんどだが、日中はトイレでの排泄ができるよう支援している。尿意がない方は、排泄間隔にあわせて時間を決めて声をかけ誘導している。	
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	畑からとってきた野菜やバナナや牛乳を混ぜた野菜ジュースなどを工夫して飲んでいただくことで排便を促す努力を行っている(看護婦さん うんこでんて 悪魔のジュースください)という笑顔		
45	(17)	○ 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴中の危険を回避するためになるべく昼間の外部からの救援も可能な時間帯に清潔保持を目的とした入浴支援を行っているが、風呂に花を浮かべる、ゆずを入れる、りんご風呂にするなどの楽しむ風呂の工夫も行っている	週3回午後にお風呂を準備して、希望を聞きながら行っている。浴室の関係で、二人介助が必要な場合は、二人で介助を行い湯船にゆっくり入ってもらえるよう支援している。ゆず湯やりんご湯など楽しんでもらえるよう工夫に努めている。	
46		○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	極力本人たちの眠りにはそっとしておく体制をとるが時に100歳の方は眠っているのか死んでいるのかも不安な時が重なるのでそっと寝息を確認する。		
47		○ 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投与されている薬によって様々な副作用や昼夜逆転になったままの入居者の状況を確認したり処方箋を確認し、安心してここを住処とする思いが重なることで、「薬を後押しする環境づくり」に職員が心を置いていることで、理解を深めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リズムテーブル(ヤマハ)の設置、畑の活用、内部の役割等をできる方法でやっていただいている。保育園や同一施設交流会の出会い等で「保育園」では多くの「おばあさん」が決まっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	阿南農場のひまわり畑や担当者による食堂、イチゴ狩りなどに参加している。春には桜並木の見学と同地域のグループホームとの交流会を行っている。道路を挟んだデイサービス本館に散歩で立ち寄ることもできたが、7年を経過する中で、歩行に危険性があり骨折等による入院が生じた中では行きたいところへは職員同伴が基本となる	季節によっては畑に野菜を採りに行ったり、散歩や隣のデイサービスセンターへ遊びに出かける、近所のショッピングセンターへの買物などを楽しんでいる。お花見等のドライブ、家族の協力を得ての外出や外出など、できるだけ外に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	模擬店の開催によってお金又は模擬銭を使う機会を設けた行事を行うことでその雰囲気を提供できると考えられるが現状では金銭を直接使用の機会は「なくすこと」のリスクを考慮して提供していない。それは身近な職員であればあるほど最初に疑いの対象になり今現在の処遇上の支障が発生し溝が深まったまま家族とも不信感のもとになったことが他の事業所であったので所持は問題が大きすぎる。実際にはお金がお金として機能しない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ネットワークシステムの構築などによってパソコンから顔が見える形を考慮したり、担当者が毎回手紙や写真を送付している。電話にはどの人も出ている。またメールで家族に写真を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には家族の方が提供された写真、保育所の子供たちの作った絵や折り紙、季節ごとの花が提供され、音楽療法のミュージックテーブルでの演奏等居心地に必要な刺激を提供可能にしている	共有空間は広々としており、ソファを置くなどしてくつろげるように工夫されている。大きなお雛様や日本人形が飾られ、季節感が感じられるような配慮もされている。暖房は床暖となっており加湿器も置かれ、過ごしやすい温度管理がされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いロビーの中で個々に自分の居場所を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものでも、本人のトラウマを引出し不安になる要素が含まれているものもあり家族でも察知できない思い出が詰まっていて最悪になる場合もあり居心地と使い慣れたものの格差もあるので居心地良く過ごす最良の問題点は居心地と寝心地を気持ちよく提供できる職員側の配慮が必要と心得る	家で過ごしていたようにこたつを作って過ごす、身内の写真や遺影を飾る、大きなぬいぐるみを置くなど、本人が落ち着いて過ごせるように工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	9名のグループホームとしてはロビーの広さは最大であり、安全な居場所環境は整っている。とともに各人の部屋のづくりには危険性を排除し、火災などにも掃きだし窓で「火」から逃げやすい環境にしてある。		

目標達成計画

作成日: 平成24年3月20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有のためには短く飲み込みやすい「言葉」を作り上げたい	職員からは様々な意見が出ているので4月中には完成する	毎日職員たちが短くてうまい言葉で自らの理念を言い当てあてる言葉を探している	1ヶ月
2	6	身体拘束をしないケアの実践	調査員から現場での食事時のエプロンも身体拘束につながるとのご意見をいただき、家族から使ってくれと言われて使っている状況を家族への理解を含めて今後の課題である	エプロンを全く使わない方法をどのように実現するか又は使い方、工夫の仕方をあれこれやっているが要はエプロンで自由を奪った状態で食事提供をしない工夫か	毎日 取り組み
3	6	思いや意向の把握	現在のケアマネジメント方式をセンター方式に全面的に変えられるか	一部使いやすいところから又は調査員から指摘のあった表から作成しながら最終的には全過程をセンター方式にもっていかれる工夫を行いたい	2年間の間
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNoを記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

目標達成計画